

井の頭恩賜公園七井池の水質浄化に関する意見書

上記の議案を提出する。

平成16年12月21日

提 出 者

28番 深 沢 達 也

5番 小 野 正 二

2番 きくち 太 郎

13番 桜 井 和 実

16番 大 野 まさき

27番 寺 山 光一郎

武蔵野市議会議長 田 中 節 男 殿

井の頭恩賜公園七井池の水質浄化に関する意見書

吉祥寺の誇りである井の頭公園の七井池は、小石川上水（後の神田上水）の水源地として有名です。かつて、池の水質は極めて清らかで、水草や魚類の生息数も少なく、大量の湧水が神田川へ流れ出ていたと推測されます。池の周辺は、明治時代に宮内省の御用林となり、大正2年東京市へ下賜され、大正6年に恩賜公園として一般市民に開放されました。

以来87年間、この地域は東京の発展とともに大きく変貌しました。環境のよさと交通・買い物の利便性から、井の頭公園西側には大規模なマンションが屏風のように建ち並び、北側の吉祥寺駅周辺ではビル群の建設やJR中央線の連続立交事業などが、短い期間のうちに行われてきました。こうした地下を掘削する工事の集中が、七井池の地下水脈を切断し、湧水を涸渇させたのは間違いありません。

その後、井戸からの注水や水中酸素の補給、しゅんせつ工事等が行われましたが、公園当局の御努力にもかかわらず、七井池は薄茶色に濁り、池のコイが見えないほど水質が悪化してしまいました。これは、多量のコイのえさや水鳥のふん等、原因は多くあると考えられますが、一つ一つ検証して改善していかなければならない事象であると考えます。

現在、公園内にある水棲動物園の白鳥飼育舎では、ガラスに付着したコケをついばむタナゴを観ることができます。タナゴの生息は、カラスガイやドブガイ等、淡水性の二枚貝が生息している証拠でもあり、池の底まで光が届いていることを示しています。今、真剣に水質改善に取り組めば、池は必ずこたえてくれると考えます。

よって本市議会は貴職に対し、七井池の底が透けて見えるまで池水を澄ませる事業を、あらゆる研究と模索によって取り組んでいただきますよう、強く要望いたします。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成16年12月 日

武蔵野市議会議長 田 中 節 男

東京都知事 あて